

石原純・長岡半太郎書簡等(池辺常刀旧蔵)目録

請求記号	表題	作成者	作成年代	形態	数量	内容(摘要)	備考
池辺 1	〔石原純書簡〕(池辺常刀あて)	石原純	〔大正10年以前力〕2月4	400字詰原稿用紙	1枚	(御稿出版については…御世話も申し上げたく…御面会でも出来れば)	
池辺 2	〔長岡半太郎書簡〕(池辺常刀あて)	長岡半太郎	〔大正10年力〕11月1日付	便箋	1枚	(御編述の相対性原理は桑木博士に一度批評を乞ふ事…)	封筒入り(3銭切手貼)
池辺 3	〔石原純コメント〕	〔石原純〕	〔大正11年1月下旬力〕	400字詰原稿用紙	4枚	池辺著『特殊一般相対性原理』(岩波書店、大正11年7月刊)へのコメントか	鉛筆書き入れ「岩波氏宛手紙と同封、一月下旬モノ」
池辺 4	〔石原純書簡〕(池辺常刀あて)	石原純	〔大正11年以前力〕2月10日付	官製葉書	1枚	(けふ結構なもの頂戴して却って恐縮に存じます。御著書の方うまく御運びのことを祈りあげます)	
池辺 5	〔石原純書簡封筒〕(池辺常刀あて)	石原純	大正11年2月消印	—	1枚	(書簡欠)	3銭切手貼、封筒表に「第一信」の書き入れあり
池辺 6	〔石原純書簡〕(池辺常刀あて)	石原純	〔大正11年〕2月14日付	400字詰原稿用紙	2枚	(お送りの原稿拝見しました。第七章はこれで結構でせう。第二章の分はやはり少し原子論に立ち入り過ぎはしないかと思はれますが…)	封筒入り(切手ハガレ)、封筒表に「第二信」の書き入れあり
池辺 7	〔石原純書簡〕(池辺常刀あて)	石原純	〔大正11年〕2月22日付	400字詰原稿用紙	3枚	(十五日及十七日付お手紙拝誦しました…御返事がこんなに遅くなったことを御詫びいたします)	封筒入り(切手ハガレ)、封筒表に「第三信」の書き入れあり
池辺 8	〔石原純書簡〕(池辺常刀あて)	石原純	〔大正11年力〕	紙片	2枚	石原著「相対性原理」および同「エーテルと相対性原理の話」それぞれの正誤表を同封	封筒入り(切手ハガレ)封筒表に「第四信」の書き入れあり
池辺 9	〔石原純書簡〕(池辺常刀・御内あて)	石原純	大正11年3月18日付	葉書	1通	(書物小包たしかに御受けとりいたしました)	
池辺 10	〔石原純書簡封筒〕(池辺常刀あて)	石原純	大正11年〔4月〕	封筒	1枚	(書簡欠)	封筒表に「第六信」の書き入れあり
池辺 11	〔石原純書簡〕(池辺常刀あて)	石原純	〔大正11年力〕4月6日付	400字詰原稿用紙	4枚	(私からの申し上げやうの不十分な点や疎漏などから問題をこみ入らせて済みません。どうぞ御ゆるしの上、もう一度説明させて下さい)	封筒入り(3銭切手2枚貼大半破損)、封筒表に「第七信」の書き入れあり
池辺 12-1	〔石原純書留書簡〕(池辺常刀あて)	石原純	大正11年4月11日付	200字詰原稿用紙	2枚	(先日御依頼になった御著述の序文に就ては…ここに同封いたしましたから御一覽願ひ上げます)	封筒入り(10銭切手貼上部破損)、書留便、永井信二郎名刺添付

石原純・長岡半太郎書簡等(池辺常刀旧蔵)目録

請求記号	表題	作成者	作成年代	形態	数量	内容(摘要)	備考
池辺 12-2	[池辺著『特殊一般相対性原理』序文原稿]	石原純	大正11年4月11日付	400字詰原稿用紙	1綴(3枚)	(今度あなたの相対性原理に関する御著述が世に出ることに就いて私は自分の一つの大きなよろこびをあなたに申し上げたい)	池辺著『特殊一般相対性原理』(岩波書店、大正11年7月刊)の石原序文
池辺 13	[石原純書留書簡](池辺常刀あて)	石原純	[大正11年力]5月29日付	200字詰原稿用紙	1枚	(御著も近々上梓のはこびのよし、大慶に存じあげます、御序文はこれで結構と思ひます、二三字句を訂正してお返しいたします)	封筒入り(切手欠)
池辺 14	[池辺著『特殊一般相対性原理』序文原稿]	桑木或雄	大正11年5月付	200字詰原稿用紙	5枚	(物理学的事実に関する著者の豊富なる知識は初めて長岡先生、吉田造兵少将の紹介に依りて本書の原稿を通読した余をして…)	池辺著『特殊一般相対性原理』(岩波書店、大正11年7月刊)の桑木序文
池辺 15	[石原純書簡](池辺常刀あて)	石原純	[大正11年力]8月17日付	400字詰原稿用紙	1枚	(…こちらへ帰ってから御著書の転送されて来たのを手にすることが出来ました)	封筒入り(3銭切手貼一部破損)
池辺 16	[石原純書簡](池辺常刀あて)	石原純	[大正12年]1月7日付	400字詰原稿用紙	1枚	(旧冬御不幸のあったことを伺って御哀悼申しあげます。それがアインシュタイン教授来朝の機であったことも一層於悲しくお思ひでしたせう)	アインシュタインの来日は大正11年11月～12月
池辺 17	[長岡半太郎書簡](池辺常刀あて)	長岡半太郎	大正12年7月2日	便箋	2枚	(御家族の病…御困りの事と存じます辞職願は先日御預りして…)	封筒入り(3銭切手貼一部破損)、昭和12年4月から封書料金は4銭となったため、大正期と判断
池辺 18	[石原純書簡](池辺常刀あて)	石原純	[大正12年]10月4日付	400字詰原稿用紙	1枚	(…当地もひどい震災に出遇ひまして、町のは大半は潰滅しましたが、私は幸に災厄をまぬがれました)	封筒入り(切手ハガレ)、関東大震災は大正12年9月1日
池辺 19	[石原純書簡](池辺常刀あて)	石原純	[年未詳]3月16日付	400字詰原稿用紙	3枚	(反対意見を雑誌に発表しておくことも他に對して必要…あなたが勇敢に駁論を呈出されることを私は望んでゐます)	
池辺 20	[長岡半太郎書簡](池辺常刀あて)	長岡半太郎	[昭和]11年8月26日付	便箋	2枚	(三十日の試験の結果は御手紙で承知しました、昨日の手紙で海軍の要求ははっきりしました…)	封筒入り(3銭切手貼)、文中の高橋龍太郎(1904-1993)が昭和16年に東京帝国大学地震研究所教授となっていることから年代比定
池辺 21	[長岡半太郎書簡](池辺常刀あて)	長岡半太郎	[年月未詳]14日付	理化学研究所便箋	2枚	(…軍の要求で手のつけられないやうなものもありますが又こんなものと思ふことがあります…)	封筒入り(切手ハガレ)